
NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.50 Mar., 2008

目次

企画案内 ・・	1
日本保健物理学会第42回研究発表会のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・	1
理事会報告 ・・	2
平成19年度第5回理事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
企画委員会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
平成19年度第4回企画委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
編集委員会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
平成19年度第4回編集委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
国際対応委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
ICRP 新勧告に関するシンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
ICRP 報告書「レファレンス動植物」に対するコメントの取りまとめ	6
放射線防護標準化委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第13回幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第14回幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第15回幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
第16回幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
第17回幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
第18回幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
専門研究会等の報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
内部被ばく評価のための対外計測器に関する標準校正法研究会	7
ICRP 新消化管モデル専門研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会	8
大学等における放射線安全管理教育連絡会	10
大学等教員協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
若手研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
次期専門研究会のお知らせ	11
学会掲示板 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
「学友会」活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
インターネットグループの活動	12
学会刊行物の案内	12
会員コーナー<印象記> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
シンポジウム「ICRP 新勧告が出されこれからの放射線防護を考える」	13

企画案内

日本保健物理学会 第42回研究発表会のご案内

第42回研究発表会（沖縄大会）を下記の要領で開催致します。会員各位ならびに関係者の皆様には遠方よりお越しいただくこととなりますが、万障お繰り合わせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。プログラムを含む詳細は、沖縄大会ホームページ（下記）ならびに学会誌「保健物理 Vol.43, No. 1」を参照してください。なお、会期中は梅雨明け直後の夏空が見込まれますので、軽装でのご来場をお勧めします。

記

会期：平成 20 年 6 月 26 日（木）、27 日（金）

会場：沖縄コンベンションセンター 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 4-3-1

電話：098-898-3000 <http://www.oki-conven.jp/>

発表申込み：

締め切りました（約 170 演題のお申込をいただきました）

要旨原稿提出期限：

平成 20 年 3 月 30 日（日）必着

参加申込期限：

平成 20 年 5 月 11 日（日）必着（発表者は参加登録済み）

参加費（要旨集 1 冊を含む）

会員 7,000 円、非会員 8,000 円、学生会員（正・準）2,000 円

懇親会

日時：平成 20 年 6 月 26 日（木）19:00～21:00

場所：沖縄コンベンションセンター会議棟 A

会費：7,000 円（ただし学生は 1,000 円）

会場アクセス

モノレール「おもろまち駅」と会場間に無料送迎バスを運行します。

沖縄大会ホームページ

<http://www.okinawa-congre.co.jp/jhps42>

事務局（琉球大学理学部地学系内）

電子メール：jhps42-secre@okicongre.jp、電話：098-895-8567

（大会長：古川雅英（琉球大））

理事会報告

平成 19 年度 第 5 回理事会議事概要

日時：平成 19 年 11 月 1 日（木）13:30～17:00

場所：原子力機構 システム計算科学センター（上野）7F 会議室

出席者：

理事：小田（会長）、猪俣、太田、斎藤、酒井、杉浦、谷口、服部、林、福士、古田、村上

監事：下、千葉 参与：高見、山外 委任出席：山澤

議事概要：

- (1) 平成 19 年度第 1 回学会賞選考委員会の状況について報告があり、推薦書の締め切りを 2 月 15 日とすること、3 月の理事会に候補者案を提出すること、功労賞と貢献賞に係る細則の変更内容などの説明があった。
- (2) 編集委員会活動報告があり、英文投稿手引きの見直し、Web サイトの引用方法の検討、論文投稿促進活動等について説明があった。また、第 41 回研究発表会関連の特集記事及び世界の放射線防護に係る連載記事等の企画について紹介があった。この中で、論文投稿促進に関連し、ベテランへの投稿依頼、論文賞受賞者への特典などについての検討を促す意見が出された。
- (3) 企画委員会の企画行事（保物セミナーにおける企画委員会担当枠、中越沖地震に係るシンポジウム等）について説明があった。「中越沖地震に係るシンポジウム」については、日本放射線安全管理学会に対し共催を依頼することが了解された。
- (4) IRPA-12 対応や ICRP 新勧告の状況等について説明があり、12 月に東京で開催される OECD-NEA の CRPPH 会合に係る保物学会発表の内容について検討することとした。また、2 カ国・3 カ国交流プログラムの実施計画等に係る説明があった。AOCRP-3 について開催地の候補地の選定や組織委員会発足に係る作業の状況、IRPA-12 における EC メンバークリア確保の方針等について説明があった。
- (5) 放射線安全管理学会との交流の計画（相互の研究発表会において招待講演枠を設けることなど）等の紹介があった。また、「大学（専門学校）における医療分野の放射線に関する研究会」に係る説明があった。
- (6) 放射線防護標準化委員会幹事会の状況報告があり、「重要な概念」に係るパブリックコメントのスケジュールの検

- 討状況等が紹介された。また委員の変更に係る理事会での承認は、メーリング理事会で実施することとした。
- (7) 広報担当から、他機関のイベントの後援・協賛等が承認された時など、HP 上で紹介する必要がある場合には、直ちにインターネットグループに送付するようこの要請があった。
- (8) 平成 19 年度第 2 四半期における会計状況、会費未納者への催促の検討状況、学会誌への広告依頼の状況等の説明があった。
- (9) 若手研セミナー「我が国における原子力報道のあり方について考える」の実施報告があった。
- (10) 名誉会員推薦の計画案及び内規の改定案について説明があった。これに関連し、会員の退職が退会につながるようするための方策（準会員制度など）について検討すること、名誉会員推薦内規における推薦者の範囲の拡大を図ること等が確認された。
- (11) 「個人情報保護方針」の現状について紹介があり、さらに意見を求め検討することとした。
- (12) 入会について承認された。入会（準学生会員） 2 名
- (13) NRE (Natural Radiation Environment) IX の日本開催について打診について説明があり、保物学会として引き受けることはしないものの、日本国内において開催されることになった場合には協力することになった。
- (14) 学会規定（事務局の住所変更）や黒川・桂山基金運用規則（表現の適正化）の改定について承認された。
- (15) 日本放射線研究連合（JARR）の幹事について被推薦者を協議し、第 1 候補を杉浦副会長、第 2 候補を太田理事とすることとなった。
- (16) 第 41 回研究発表会の決算について紹介があり、剰余金については AOCRP-3 の資金としたい旨の意向であるが、黒川・桂山基金及び 42 回大会への寄付についても打診することとした。
- (17) 今後学会として検討すべき課題についての説明があり、意見の交換を行った。この中で、次年末に予定されている非営利法人制度の変更及び過去の学会改革委員会における議論の内容をふまえ、学会の法人化及び学会名称の変更について再び検討してはどうかという提案があり、その必要性及び全学会員による議論の方法等について、次回以降の理事会で改めて考えていくことになった。
- (18) 平成 21 年度の研究発表会の開催地について次回の理事会において決定することになった。

以下メーリング理事会

- (19) 放射線防護標準化委員会委員の交代、シンポジウムの共催及び運営委員の推薦、並びに講演会の共催について承認された。（12 月 4 日付）
- 放射線防護標準化委員会委員の交代（2 名）
 - 原子力総合シンポジウム 2008 の共催。運営委員は福土理事を推薦。
 - 第 7 回核融合エネルギー連合講演会の共催
- (20) 入退会について承認された。（12 月 11 日付）
- 入会：（正会員）1 名、（準学生会員）3 名 退会：（正会員）2 名
- (21) 入会について承認された。（12 月 18 日付）
- 入会：（正会員）1 名
- (22) 入退会について承認された。（12 月 27 日付）
- 入会：（正会員）2 名、（準学生会員）1 名 退会：（正会員）1 名、（団体会員）1 機関
- (23) 入会について承認された。（1 月 9 日付）
- 入会：（正会員）1 名
- (24) 入退会について承認された。（1 月 17 日付）
- 入会：（正会員）2 名 退会：（正会員）2 名
- (25) 入会について承認された。（1 月 24 日付）
- 入会：（正会員）1 名

（総務理事：村上 博幸（原子力機構））

企画委員会報告

平成 19 年度 第 4 回企画委員会議事録

日時：平成 20 年 2 月 22 日（金）13：30～17：00

場所：原子力研究開発機構システム計算科学センター

出席：古田（委員長）、太田、谷口、飯本、大内、伴、渡辺_浩、渡辺_想、山崎、細田、中田（幹事）

議題

-
-
1. 第3回企画委員会議事録確認
 2. 理事会報告
 3. シンポジウム開催報告
 4. 各専門研究会活動報告
 5. 専門研究会等の決算について
 6. 次期専門研究会
 7. 広報報告
 8. インターネットグループ報告
 9. その他

配布資料

- 4-1 平成19年度第3回企画委員会議事録(案)
- 4-2 平成19年度第6回保健物理学会理事会議事録
- 4-3-1 シンポジウム「内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正方法」開催報告
- 4-3-2 シンポジウム「ICRP新勧告が出されこれからの放射線防護を考える」開催報告
- 4-5 専門研究会等の決算について
- 4-6-1 ラドン測定標準化専門研究会の設立について
- 4-6-2 医療放射線リスク専門研究会専門研究会
- 4-6-3 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会
- 4-6-4 次期専門研究会の立ち上げについて【会員周知メール】
- 4-8 インターネットグループの活動について
- 4-9 保物学会資料在庫リスト

議事

1. 第3回企画委員会議事録
前回会合の議事録を確認した。
2. 理事会報告
理事会での議事・報告事項を確認した。
3. シンポジウム開催報告
平成20年1月及び2月に開催した「内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正方法」及び「ICRP新勧告が出されこれからの放射線防護を考える」の2件のシンポジウムについての紹介と会計報告があった。
4. 各専門研究会活動報告
各専門研究会担当委員からそれぞれの専門委員会の中間報告があった。
ウラン健康影響専門研究会は報告書を作成中である旨の報告があった。
ICRP新消化管モデル専門研究会については、2月24日に第4回を開催しICRP Publ. 100の翻訳作業を中心に活動を進めているとの報告があった。
内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正法研究会については、1月22日にシンポジウムを開催した旨の報告があった。
放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会については、3月6日に勉強会を開催する。この際、10名程度の一般参加者も先着順での参加を検討している旨の報告があった。
5. 専門研究会等の決算について
会計担当理事からの専門研究会等の決算に関して、各研究会等の担当企画委員は、締め切り及び依頼事項をフォローすることが確認された。
6. 次期専門研究会
次期専門研究会の募集により3件の応募があり、企画委員会MLによる審査が1月29日に終了し、翌30日の理事会において承認された旨が報告された。本件について保物MLでの会員周知メール(案)の紹介があり、同時に学会HPで提案書を掲載することとした。
7. 広報報告
理事会でシンポジウム開催時にマスコミへの声掛けの判断を企画側で行うこととの指示を受け、本件を企画委員会で検討した。積極的にアピールするかしないかは、シンポジウムの企画段階で判断すべきで、参加費用については明確な取材目的であれば無料とする旨が確認された。さらに、名誉会員の名簿を準備すること、賛助会員については、事前に証明書等を配布しておくこと等も検討することとなった。
8. インターネットグループ報告

Newsletter No. 50 は、3月下旬を目途に発行することとした。

NL 郵送中止のアナウンスは、今回を最後とし、今後は、年1回の頻度で登録依頼メールを送信すること及び学会誌にMLアドレス登録を呼びかける文書を掲載することが決定された。

9. その他

- ・ 保物学会で過去に作成した資料（要旨集、報告書等）で、現在、学会事務局で所有している在庫リストが紹介された。
- ・ 第42回研究発表会のポスター発表について、来年度実施（継続2件）の専門研究会及び企画委員会の活動紹介は場所を確保する。企画委員会のポスターは、幹事が作成する。
- ・ 学会HPに技術士のページ（リンク）を作成する。
- ・ 次回の会合は、5月30日（金）に開催予定。

（企画委員会幹事：中田 陽（原子力機構））

編集委員会報告

平成19年度 第4回編集委員会議事録

日時：平成19年12月14日（金）10：00～12：00

場所：日本原子力研究開発機構 システム計算科学センター7階大会議室（上野）

出席：斎藤（委員長）、木名瀬（幹事）、赤羽、石川、木内、木村、中野、中村、林、安岡、山澤、横山、大倉（若手）、笠原（事務局）

議題

1. 第3回編集委員会議事録確認
2. 投稿手引きの見直し
3. 学会賞の推薦
4. 英文記事の提案と論文投稿依頼文書案（国外）
5. web引用の原則
6. 企画記事の検討
7. 論文審査状況、42-4、43-1号編集進捗状況の確認
8. その他

配布資料

- 4-1 2007年度第3回編集委員会議事録（案）
 - 4-2-1 「保健物理」投稿の手引き
 - 4-2-2 Japanese Journal of Health Physics Instructions to Authors
 - 4-3 学会賞の推薦
 - 4-4-1 Radiation Protection in the worldの執筆依頼文案
 - 4-4-2 Radiation Protection in the worldの執筆候補者案
 - 4-5-1 web引用の原則
 - 4-6-1 Aパート進捗状況
 - 4-6-2 Bパート進捗状況
 - 4-6-3 Cパート進捗状況
 - 4-6-4 若手研究会記事
 - 4-7-1 42-4、43-1号編集状況
 - 4-7-2 論文審査状況
- 参考資料1 「保健物理」投稿規則

議事

1. 前回議事録の確認
2007年度第3回編集委員会議事録が承認された。
2. 投稿規程の見直し
Japanese Journal of Health Physics Instructions to Authorsの修正案について検討した。変更部分が多いため、1月中旬を目途に精査することになった。
3. 学会賞の推薦

今年度の学会賞推薦選考のため、学会誌に掲載された和文について検討した。学会賞推薦には、客観性を重視するため、査読委員の意見などを考慮することとした。また、英文についても後日検討することとなった。

4. 英文記事の提案と論文投稿依頼文書案(国外)

国外の保健物理研究者に対して送信する、論文投稿依頼文書案、具体的な送付先(11名)について了承された。

5. web引用の原則

投稿原稿において、適切な内容を含むウェブサイトを引用することが了承された。引用方法について、投稿の手引きに規程することとなった。

6. 企画記事の検討

専門研究会、国際機関の活動、国内外で開催された会合に関連した記事の執筆等進捗状況が確認された。また、企画委員会との連携活動として、中越沖地震に関する記事について具体的な提案があり了承された。

7. 論文審査状況、42-3、4号編集進捗状況の確認

42-4号の編集状況、次号43-1号以降の掲載論文の審査状況が確認された。

8. その他

依頼原稿の別刷りについて、著者から希望があった場合には100部程度(現在30部)を無料進呈することが提案された。

第41回研究発表会に関する実行委員会の記事は特別記事にすることとなった。

今回の会合は、平成20年3月19日(水)13時30分から、東京大学で開催されることとなった。

(編集委員会幹事：木名瀬 栄(原子力機構))

国際対応委員会

ICRP新勧告に関するシンポジウム

ICRPの新勧告(2007勧告)が刊行されたことを受け、企画委員会と連携して、2008年2月18日に学会シンポジウム「ICRP新勧告が出され、これからの放射線防護を考える」を開催した。第1部「新勧告を知る」では、ICRP国内委員から新勧告の概要とポイントが紹介された。また、小田会長から新勧告策定の過程において提出された保健物理学会のコメントの反映状況が紹介された。第2部「新勧告の適用」では、新勧告の国内法への取り入れや、電力を含む各方面への波及効果について意見交換が行われた。第3部では「今後の保健物理学会の対応」と題して、国際対応委員会と企画委員会から「新勧告後」への取組みが紹介された。

ICRP報告書「レファレンス動植物」に対するコメントの取りまとめ

1月7日にICRPの報告書「環境の防護：レファレンス動植物の概念と適用」のドラフトがICRPのウェブページにて公開され、コメント募集が行われている(3月28日締切)。これを受けて、メールおよびホームページにて広く会員に意見を求めた。寄せられたコメントを国際対応委員会にて取りまとめた上でICRP宛に送付する予定である。

(国際対応委員会委員長：放医研 酒井一夫)

放射線防護標準化委員会

標準、規準案の策定専門部会を兼ねる幹事会を中心に、以下の活動を実施している。

第13回 幹事会

開催日：平成19年7月4日(水)

場 所：富国生命ビル9階 関電11号会議室

出席者：服部理事、猪俣理事、飯本幹事、橋本幹事、西谷幹事、中居委員、河田委員、鈴木委員、佐藤幹事代理

議事概要：

- ・「中期スケジュール(案)」、「重要な概念(案)」及び「重要な概念 別冊(案)」(一部)が報告され、「重要な概念(案)」の内容の確認と修正を中心に議論した。

第14回 幹事会

開催日：平成19年7月18日(水)

場 所：東京大学大学院工学系研究科タンデム加速器研究棟

出席者：飯本幹事、河田委員

議事概要：

- ・「重要な概念（案）」、「ラドンの安全規準（案）」が報告され、それぞれについて協議した。
- ・「重要な概念」策定のスケジュールを確認した。

第15回 幹事会

開催日：平成19年12月17日（月）

場 所：東京電力 東新ビル 1階 105会議室

出席者：服部理事、猪俣理事、飯本幹事、山本幹事、片岡幹事、鈴木幹事

議事概要：

- ・「重要な概念の解説」の構成・取り扱いについて議論し、また、作成分担を確認した。
- ・「重要な概念（案）」の内容を確認するとともに、策定までのスケジュールを確認した。
- ・「ラドンの安全規準（案）」の内容を確認するとともに、次回幹事会ではラドン関係者の参加も得て議論することを決めた。

第16回 幹事会

開催日：平成20年1月21日（月）

場 所：東京電力 東新ビル 1階 105会議室

出席者：服部理事、猪俣理事、飯本幹事、橋本幹事、片岡幹事、鈴木幹事、米原委員、
床次オブザーバー、真田オブザーバー、中川オブザーバー、鈴木オブザーバー

議事概要：

- ・「ラドンの安全規準（案）」の内容、及び補足資料を含めたガイドラインの構成について議論した。また、今後の作業内容も確認した。
- ・「重要な概念（案）」についてのコメントへ対応を議論し、また、策定までのスケジュールを確認した。

第17回 幹事会

開催日：平成20年2月8日（金）

場 所：東京電力 東新ビル 6階 607会議室

出席者：飯本幹事、橋本幹事、山本幹事、片岡幹事、鈴木幹事、中川オブザーバー、吉田オブザーバー

議事概要：

- ・「重要な概念（案）」への委員コメント（1/22～2/5）の対応案について議論し、幹事最終案とし、委員長の確認後に決議投票に移ることとした。
- ・「重要な概念の解説」について、内容の議論を行った。各分担者は、議論結果に従い修正作業を行うこととなった。
- ・「ラドンの安全規準（案）」の内容、構成について再確認した。
- ・3月中旬の本委員会開催に向けた調整をすることとした。

第18回 幹事会

開催日：平成20年3月5日（水）

場 所：東京電力 東新ビル 6階 603会議室

出席者：服部理事、猪俣理事、飯本幹事、橋本幹事、山本幹事、片岡幹事、鈴木幹事、
中川オブザーバー、吉田オブザーバー

議事概要：

- ・「重要な概念（案）」への決議投票状況及びこれまでのコメントへの対応について議論した。
- ・「ラドンの安全規準（案）」の内容、構成について再確認した。
- ・第4回標準化委員会（3/12）の議事及び準備資料について確認した。

（放射線防護標準化委員会幹事：飯本 武（東大））

専門研究会等の報告

内部被ばく評価のための対外計測器に関する標準校正法研究会

標準校正方法に関し、回付されたドラフト案の取りまとめに加え、体外計測器における校正・相互比較の領域で世

界の指導的役割を果たしているカナダ、HML との協議結果も合わせた報告書作成準備に入った。又、現時点までの成果報告に加え、他分野における標準校正の考え方と齟齬が無いよう、下記のようなシンポジウムを開催した。

シンポジウム「内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正方法」開催報告

開催日 : 2008年1月22日(火) 13:00-17:00

開催場所: 東京大学 工学部11号館大講堂

保健物理学会では、内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正方法専門研究会を立ち上げ、科学的知見に基づく合理的で標準的な校正方法の検討を進めてきたが、現状の問題点把握と諸外国の規格整理作業を完了し、体外計測器に関する標準校正の考え方と校正方法の骨子がまとまるに至った。そこで、関連する諸分野の方々から校正基準、放射能トレーサビリティの視点で講演頂き、体外計測器に関する標準校正の在り方を検証することを目的として本シンポジウムが開催された。日本放射線安全管理学会との共催でもあったことから、肌寒い日で、且つ専門性の高い内容にも拘らず参加者は大学、研究所、企業、官庁等、54名を数え、活発な議論も行われた。

プログラムは下記のとおりであった。

司会: 放射線医学総合研究所 鈴木敏和

①体外計測器の今後に関する提言

(東京大学: 小佐古敏荘)

②我が国における体外計測器の現状

(放射線医学総合研究所: 仲野高志)

③製作側から見た校正用ファントム

(京都科学: 野村源吾)

④外部被ばく線量測定用個人線量計に関する標準校正の考え方と校正方法について

(日本原子力研究開発機構: 吉澤道夫)

⑤内部被ばく線量測定用体外計測器に関する標準校正の考え方と校正方法について

(放射線医学総合研究所: 鈴木敏和)

⑥内部被ばく線量評価の為にバイオアッセイに関する放射能評価方法と基準について

(日本原子力研究開発機構: 武石 稔)

⑦放射能に関する国家基準の定め方について

(産業技術総合研究所: 柚木 彰)

(主査: 鈴木敏和 (放医研))

ICRP 新消化管モデル専門研究会

本専門研究会では、ICRP Publ.100「放射線防護のためのヒト消化管モデル」について、学会員の共通の理解と情報共有のため活動しています。

第4回会合を2月26日(於 東京)に開催しました。第4回会合では、Publ.100解説書のドラフトについて検討しました。ドラフトは、過去3回の会合で担当委員から紹介していただいた各章のレビューを再度解説書の形に整理していただいたもので、その中で記載に迷うような箇所についてのテクニカルな検討と、併せて用語の統一等の編集上の検討も行いました。今後、第4回会合の検討を反映したドラフトを3月中には仕上げ、学会内の諸手続きを終えた後、活動報告書 Part 1 として学会ホームページ上に公開したいと考えています。

次年度も3ヶ月に1回程度の頻度で開催していく予定ですが、次年度はICRP 新消化管モデルに関連するテーマ発表を中心とした内容を考えています。

(幹事: 伊藤公雄 (原子力機構))

放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会

「食の(住の)安心・安全」「リスク認知」「リスク・リテラシー」などなど、これらの言葉は一時の流行語でなくいまやすっかり市民権を得た感があり、いたるところで見受けられる。私を始め意識せずに何気なく使っている人も多いのではなかろうか。しかし、これらの言葉をキーワード的に使うことで、理解した気にはなっていないもの、あらためてよく考えてみると、具体的に何を意味するのかはよくわからずきたというのが私の本音である。その一方、職場では放射線取扱主任者として安全取扱いを提言していく立場であり、放射性同位元素を使用したり放射線を取り扱う際の「リスク」と「ベネフィット」について話す機会も多く、そのなかで伝える難しさや伝えたことが理解されたのかどうかなど、しばしば疑問や不安を感じてきた面もあった。

平成19年度に設置された「放射線のリスクコミュニケーション（リスコミ）検討専門研究会」に委員として加わった。そこで、初めて、自分がやってきたことはまさにリスコミに類するものであること、しかも、リスコミはアカデミックな学問であると同時に確立されたスキルでもあるので、私がもっていた疑問のうちいくつかはあっけなく解決されるものであること、さらに、今までリスコミと考えていたものにはいくつかの大きな誤解があることを認識した次第である。例えば、自然科学系研究者は、ステークホルダーに対して「リスク」と「ベネフィット」をきちんと説明すれば、相手が合理的な意思決定をしてくれるはずと思っている傾向はないだろうか？「公正さ」「双方向」「共考」がリスコミの主要3要素と考えられているそうなのだが、「公正さ」だけでは、リスコミは本来達成することはできないものなのである。

日本保健物理学会の会員の所属は、原子力から医療・工業・農業・基礎研究まで広い分野にわたっている。それぞれの会員は、それぞれの所属分野において、放射線安全・防護に関する専門家として活躍しているわけであるが、その職務のなかで、組織あるいは個人として、リスクに関し他の人に正しく理解してもらえるように説明し、双方向のやりとりを通じて相互理解を深めていかねばならない機会はきわめて多いと考えられる。

そこで、「リスコミ検討専門研究会」では、リスコミについて共通の理解と認識に立ち、有用な知識やスキルを知っていただくために、学会員に基礎的知識を提供することとし、現在、学会ホームページにて「保健物理学会員のためのリスクコミュニケーション講座」の開設に向けて準備中である。ここでは、学会員の方々がそれぞれの分野・立場で遭遇するであろうケースを想定して、いろいろな事例の紹介もしていきたいと考えているのでご期待頂きたい。

また、3月6日（木）には専門研究会メンバーの認識を深めるために、リスコミの第一人者である木下富雄先生（国際高等研究所）をお呼びして学会員公開で勉強会を開催した。以下にこの勉強会の概要を紹介する。

（委員：大内浩子（東北大学薬学研究所））

1. テーマ：リスクコミュニケーション再考－統合的リスクコミュニケーションの構築に向けて

講師：（財）国際高等研究所 木下 富雄先生

2. 日時：2008年3月6日（木）15：15～17：45

3. 場所：日本原子力研究開発機構 東京事務所第1会議室

4. 出席：14名（委員：8名、オブザーバー：6名）

5. 概要：

「リスコミ」の歴史から現在抱える問題点や誤解、今後の在り方（発展）など、初心者向けに「リスコミとは何か？」の問いに豊富な事例を基に大変わかりやすく解説がなされた。以下に要点を示す。

- ・リスクに対する広報の変遷：1995年阪神大震災を境に、リスクまたはベネフィットのいずれか一方のみの偏った広報から、ゼロリスクを否定した広報への動き
- ・リスコミブームの到来と誤解：「安全と安心」の流行に乗ってリスコミが脚光を浴びようになるが、リスコミを新種の有効な説得技法と考えたり、リスクとベネフィットの両面の提示により合理的な意思決定が得られると考えていたり、誠実さの見かけの技術であるとの誤解がある
- ・リスコミとは何か：対象の持つリスクに関する情報を、当該リスクに関係する人々に対して可能な限り開示し、互いに共考することによって、解決に導く道筋を探す社会的技術のこと
- ・リスコミの要点：
 - 「公正」 対象の持つポジティブな側面だけでなく、ネガティブな側面についての情報、それもリスクはリスクとして、関係者の欲する情報を「公正」に伝える
 - 「双方向」 一方向的なプロパガンダではなく、関係者の間で「双方向」コミュニケーションが行なわれることにより、情報を共有する
 - 「共考」 リスコミの目的は相手を説得することではなく、関係者が「共考」してその信頼関係をもとによりよい解決法を探る土台を作る
- ・リスコミを支える思想：民主主義の思想、選択的な意思決定をする権利がある、強者（圧倒的に知識を持つ者）から弱者（知識を持たない者）へ決定を与えるための情報を与える必要性
- ・外部の広報組織の必要性：リスク情報への信頼を得るには、第三者であり、専門知識を持つ組織からの情報支援が必要

（木下先生の資料より一部引用）

6. 感想：

「リスコミ」という言葉に面識のなかった私が本研究会に参加して早一年。何度も何度もあきれるほどに「リスコミとは何か？」という問いに立ち戻っていたなかでようやく拠り所となった木下先生の「リスクコミュニケーション再考」のお話を直に伺える機会をいただいた。本勉強会に参加することにより、受動的に配布された資料を読むだけ

ではなかなか理解しがたいが、実際に対面しコミュニケーションすることにより理解が一段と深まった本経験を通して、「双方向」コミュニケーションの必要性を実感することとなった。また、「リスクミ」の学問的定義に捕らわれ過ぎ、「リスクミ」を難しくて厄介で高尚なものと思え、我々が実際現場で行なっている広報活動の整理にただただ困惑していたが、木下先生の「リスクミは相手方に対する"思いやり"」とのお言葉によって「リスクミ」が私の身体にすっと馴染むのを感じた。相手に思いやりをもって誠実に向き合う、リスクミに対する私なりの解釈がようやく得られた有意義な勉強会であった。

(委員：森本恵理子（日本原燃株式会社）)

大学等における放射線安全管理教育連絡会

「大学における放射線安全管理教育連絡会」は、委員の過半数が定年を迎え、メンバーの入れ替えが必要となった。そこで、名称を「大学等における放射線安全管理教育連絡会」に変更し、新しくメンバーを追加した。現在は、非放射線業務従事者や学生教育に必要な放射線防護教育内容の整理及び現場で簡単にできる放射線防護実験の解説書の作成を検討している。新たなメンバーは以下の通りである。福土政広（主査：首都大学東京大学院）、細田正洋（幹事：中央医療技術専門学校）、加藤英幸（千葉大学医学部附属病院）、佐藤斉（茨城県立医療大学）、下道國（藤田保健衛生大学）、杉野雅人（群馬県立県民健康科学大学）、鈴木昇一（藤田保健衛生大学）、中里一久（慶應義塾大学病院）、山内浩司（岐阜医療科学大学）。

(幹事：細田正洋（中央医療技術専門学校）)

大学等教員協議会

1. 研究発表会（沖縄）での教員協議会会合

沖縄での研究発表会で大学等教員協議会の会合を予定しております。現時点では、メイン会場で2日目昼食時に行う予定ですので、是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

詳細が決定しましたらご連絡致します。

2. 学会誌掲載のための卒論・修論等の情報提供のお願い

大学等での教育・研究内容や若手研究者予備軍の活動に関する情報の共有を目的として、昨年度に引き続き学会誌43-2号に「保健物理分野の2007年度卒業論文・修士論文・博士論文一覧（仮題）」を掲載したいと考えております。つきましては、2007年度に卒業・修了されたご指導下学生諸氏に関して下記の情報をご提供下さいますようお願い申し上げます。

ご提供いただいた情報については、学会誌に掲載することをご了解して頂いたものとして取り扱いますので、掲載できない情報は含めないようお願い申し上げます。また、本人氏名の掲載については、下記をご注意下さい。

記

調査対象：2007年4月から2008年3月の間に学士、修士、博士の学位を取得した方。

提供をお願いする情報

回答者氏名、所属・身分、メールアドレス、電話番号

(以上は確認等の連絡のための情報で、掲載しません。)

学士：大学・学部・学科名、本人氏名、指導教員氏名、卒論題目

修士：大学・研究科・専攻名、本人氏名、指導教員氏名、修論題目

博士：大学・研究科・専攻名、本人氏名、論文博士および社会人の場合は所属（15文字以内、略称可）、指導教員氏名、博士論文題目、要旨（200字以内）

本人氏名掲載の同意：

昨年度は学士について本人氏名の掲載を行いませんでしたが、本年度は学士・修士・博士の区別無く、本人および指導教員の両方が同意している場合は掲載いたします。

意志をご確認のうえ、本人氏名毎に「氏名掲載に本人および指導教員が同意」と記載して下さい。（いずれか一方でも、同意がない場合は本人氏名は掲載いたしません。）

提供方法：

学会員である指導教員（教員団構成員）からの回答をお願いいたします。回答者の所属・身分が確認できない場合は掲載できない場合があります。

研究室単位で上記の情報をワードファイル（またはテキストファイル）として、メールでお送り下さい。見本として、昨年度の例（42-2号）をご参照下さい。

送付先：保健物理学会編集委員会 担当山澤弘実（名大）yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

締切：4月15日

（大学等教員協議会担当理事：山澤弘実（名大））

若手研究会

1. 主査及び幹事の交代のお知らせ

平成20年4月をもちまして主査及び幹事が任期満了に伴い交代致します。

次期主査・幹事は

主査：山外功太郎 日本原子力研究開発機構

幹事：荻野 晴之 電力中央研究所

小池 裕也 東京大学

となります。2年間若手研の活動を支え、協力して頂いた皆様に感謝致しますとともに、新主査・幹事のもとで若手研がより活発に活動していくことを願う次第です。

2. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は48名です。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

主査：吉富 寛 日本原子力研究開発機構

TEL：029-282-6182, FAX：029-282-6169, E-mail：yoshitomi.hiroshi@jaea.go.jp

幹事：高見 実智己 放射線医学総合研究所

TEL：043-206-3112, FAX：043-284-1769, E-mail：mtakami@nirs.go.jp

幹事：山外功太郎 日本原子力研究開発機構

TEL：029-282-5183, FAX：029-282-6063, E-mail：yamasoto.kotaro@jaea.go.jp

（主査：吉富 寛（原子力機構））

次期専門研究会のお知らせ

12月に次期（平成20-21年度）の専門研究会の募集したところ、応募下記の専門研究会の設置が1月30日開催の理事会で承認されましたのでお知らせいたします。なお、設置目的や活動内容につきましては、学会ホームページの以下のURLに掲載しましたので会員の皆様にお知らせします。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/groups/h20oshirase.html>

<次期専門研究会>

○ラドン測定標準化専門研究会

主査：床次眞司（放医研）

幹事：石森 有（原子力機構）ishimori.yuu@jaea.go.jp

○医療放射線リスク専門研究会

主査：甲斐倫明（大分県立看護科学大学）

幹事：伴 信彦（大分県立看護科学大学）ban@oita-nhs.ac.jp

○放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会

主査：小佐古敏荘（東京大学）

幹事：阿部琢也（東京大学）abetaku@nuclear.jp

なお、上記の専門研究会の設置により20年度は継続中の以下の専門研究会と合わせて合計5件の専門研究会が活動します。

○放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会

主査：篠原邦彦（原子力機構）

○ICRP 新消化管モデル専門研究会

主査：石樽信人（名古屋大学）

（企画委員長：古田定昭（原子力機構））

学会 掲 示 板

「学友会」活動報告

保健物理学会学友会では1月26日(土)に新宿エルタワーで開催された(社)日本原子力産業協会主催の大学生を対象とした合同企業説明会方式の「原子力産業セミナー2008」に参加しました。

会場には、32社の原子力に携わる企業や機関が集まり、総勢約240名の学生が参加し、活発な理解活動や就職活動が展開されていました。各ブースでは担当者から事業の説明や採用計画が説明され、講演会場では企業の責任者や若手社員から原子力産業の展望や業務内容についての講演がありました。さらに、プラントや燃料集合体、原子炉圧力容器模型の展示、原子力や放射線、環境に関する各種パネルの掲示などもあり、保健物理以外の原子力の理解促進にも役に立ちました。

保健物理の分野としては、線量計を扱っている千代田テクノルさんが一番近いですが、電力会社さんも放射線管理は非常に重要な部門で、保健物理を学ぶ学生の需要の広さを知ることが出来ました。

学友会は、このような就職活動を共に行うことにより、情報の共有を活発にし、将来に向けて協力し合える仲間になってきています。

(学友会代表：嶋田和真(東大院工M1))

インターネットグループの活動

インターネットグループ(IG)は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

メーリングリスト管理(主査兼務)：山崎 直(原子力機構)

ホームページ保守：中野政尚・古渡意彦・山田克典(原子力機構)、荻野晴之(電中研)

ニュースレター編集：佐川宏幸(福山大学)、鈴木敦雄(静岡県)

IG活動へ興味を持たれた方、学会ホームページ等活動内容へ改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス(jhps@wwwsoc.nii.ac.jp)へメールしてください。

メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として、メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは、研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が、月10件程度メールで配信されています。配信を希望される方は、保物事務局(jhps@iva.jp)まで配信先アドレスを連絡願います。

(IG主査：山崎 直(原子力機構))

学会刊行物の案内

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています(括弧内は残部数)。入手ご希望の方は、NPO事務センターにお申し込み下さい(送料・税別)。なお、学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあります。

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1) ICRP Publ. 66 新呼吸気道モデル概要と解説 (1995) | 1,777円(32部) |
| 2) ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書 (1998) | 1,700円(53部) |
| 3) 高度人体ファントム専門研究会成果報告書 (1998) | 2,000円(81部) |
| 4) 自然界の放射線(能)の面白さ、相互理解の掛け橋に (2001) | 1,700円(128部) |
| 5) 人々とともにある研究が拓く相互理解と信頼関係 (2002) | 2,000円(159部) |
| 6) 放射線の人体への影響 第3版 (1986) | 800円(会員割引価格、送料込)(4部) |
| 7) 放射線の人体への影響 第5版 (1992) | 800円(会員割引価格、送料込)(15部) |

連絡先：日本保健物理学会事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-5-3-716 事務センター

TEL 03-5339-7286 FAX 03-5339-7285 E-mail: jhps@iva.jp

会員コーナー<印象記>

シンポジウム「ICRP 新勧告が出されこれからの放射線防護を考える」に参加して

平成20年2月18日に、東京都港区にある原子力機構システム計算科学センター会議室で開催されたシンポジウム「ICRP 新勧告が出されこれからの放射線防護を考える」に参加する機会を得た。シンポジウムは、三部構成で、それぞれ数人の演者が講演を行った。それらの中から特に印象に残ったものについて、個人的及び行政組織の研究者として感想を述べる。

第1部の「新勧告を知る」のセッションでは、佐々木先生が、新勧告策定にあたり、舞台裏の話も交えながら経緯を説明されていた。特に、改訂にかかる主委員会及び専門委員会において、日本からの委員の先生方のご活躍について熱心に語られていたのが印象的であった。

その他、甲斐先生のご講演では、個人的に理解不足であった「線量拘束値」について、定まった経緯なども含め、詳細に説明をいただいたので、非常に理解が進んだ。この線量拘束値の考え方については、数値を一つに限定せず、バンドとして示した上で、「状況に応じたリスク提言のための目標値」として定められていることもあり、その適用法については、行政機関として説明責任を十分に果たす必要があると感じた。

続いて、第2部「新勧告の適用」では、ICRP90年勧告の取り入れ時の手続き等について説明をいただいた。

行政機関の研究者として興味があったのは、「新勧告が出され、法律の変更がどの程度必要なのか」という点であったが、これについては、今後、10年程度のスパンで放射線審議会において議論が深められることになろうが、第1部で「変化以上の継続！」を強調されていたこともあり、大幅な内規の改定はないのではないかとこの印象を持った。

今後、個人的にも組織としてもその動きを注視していきたい。

第3部の「今後の保健物理学会の対応」では、国際対応委員会及び企画委員会の活動内容について紹介があった。一会員として、取り上げてもらいたい要望などは積極的に発信していきたいと思う。

最後にひとこと。

総合討論の中でも議論があったが、保健物理学会も行政と協力した活動を積極的に実施し、学会の存在をアピールする必要があると感じた。

行政組織の研究者として、その橋渡し等、積極的に活動したいと感じた次第である。

(鈴木敦雄(静岡県環境放射線監視センター))

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：佐川 宏幸 (福山大学)